

京都大学原子炉実験所助教

小出 koide hiroaki 裕章

福島原発事故から2年。いまだ放射能の放出が収まらない原発を抱え、福島のみならず多くの人が不安を抱き生活しています。

福島では3万8千人の子どものうち10人が甲状腺ガンの疑いが有ると診断され、その内の3名は既に甲状腺ガンの手術を受けました。

爆発し壊れ果てた4基の福島原発の今後、ばら撒かれた放射能による人体への影響、世界最大である柏崎刈羽原発の危険性、増え続け処分方法すらない核のゴミ……

……子どもたちの未来を想うとき、大人ができることは何か……

小出裕章氏のお話から、その踏み出す一歩を考えます。



撮影：松岡広樹

講演会

福島原発事故と柏崎刈羽原子力発電所

子どもの未来のためにできること

日時 4月20日(土)

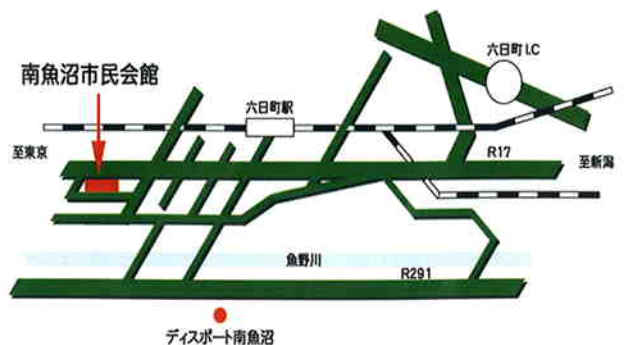
13時30分開場 / 14時開演

会場 南魚沼市民会館 大ホール

南魚沼市六日町 865
電話 025-773-5500

チケット (資料代) **500円** 中学生以下無料 **託児ルーム有り** (予約制・担当 本田)

チケット販売所 FM 雪国・南魚沼市民会館・その他



お問合せ

090-2634-9571 遠藤一也 025-772-2114 岩野武
090-4092-9934 本田桂寿美 090-6794-6373 青木修

主催：小出裕章氏の講演を聞く会

協賛：南魚沼市・南魚沼市教育委員会
南魚沼郡湯沢町

講師の経歴

小出裕章（1949年東京都生まれ） 京都大学原子炉実験所助教

「原子力の平和利用」に夢を抱き、東北大学工学部原子核工学科に入学。当時建設予定だった、女川原子力発電所反対運動集会に参加。これを契機に「原子力をやめることに役に立つ研究」を続ける事を決意。東北大学大学院工学研究科修士課程修了（原子核工学）後、京都大学原子炉実験所に勤務。「熊取六人衆」の一人。熊取六人衆（中国文化大革命の4人組をもじって六人組とも言われた）とは、「原子力災害、放射能汚染等、原子力利用に伴うリスクを明らかにする研究を行い、その成果を広く公表することにより、原子力利用の是非を考えるための材料を社会に提供する」事を目的にした京都大学原子炉実験所原子力安全研究グループの6人の科学者の総称。熊取は実験所のある大阪府泉南郡熊取町から名付けられた。（「なぜ警告を続けるのか～京大原子炉実験所・異端の研究者たち」というドキュメンタリー番組が、毎日放送で制作された）膨大な電力消費国家である現在の日本のあり方にも疑問を持ち、京大の研究室では、エアコンはおろか電気すらあまり使用しないという電力制限を自ら実践。

2011年3月の東京電力福島原発事故直後、初期の段階から格納容器破損の可能性を指摘。専門家として内部被曝の問題提起、特に幼児・妊婦などの状況を改善するよう提言を続ける。5月23日、参議院行政監視委員会の参考人として招致され、これまでの日本政府の原子力政策の問題点と現在の事故対応の不十分さを痛烈に指摘した。

40年間一貫して原発に反対し続けてきたその姿勢と、危険を隠さず指摘する事から日本で一番信用出来る科学者と主にインターネット上で信頼が増し、その謙虚な人柄と思いやりに溢れた言動に女性ファンも多い。3.11後には講演依頼が殺到し、10件に一件しか受けられない状態。テレビ出演（テレビ朝日モーニングバード等）もこなす一方、書籍も多数執筆。だが、あくまでも原子炉実験所での仕事の傍らである。

著書

『放射能汚染の現実を超えて』（1992年1月、北斗出版）

『隠される原子力・核の真実 原子力の専門家が原発に反対するわけ』（2010年12月、発行：創史社 発売：八月書館）

『放射能汚染の現実を超えて』（2011年5月、河出書房新社）

『原発のウソ』（2011年6月、扶桑社新書）

『原発はいらない』（2011年7月、幻冬舎ルネッサンス新書）

『この国は原発事故から何を学んだのか』（2012年9月、幻冬舎ルネッサンス新書）他